

<ポイント版> ぎふ経済レポート（令和6年6月分）

【製造業】

- 製造業は、4月の鉱工業生産指数は前月比▲5.1%となった。ヒアリングでは、国内需要はほぼ戻り、半導体関係の生産調整は回復に向かっているとの声や、利益率が高い部品の生産が再開されたことにより、利益は上昇したとの声が聞かれた。一方で、大手自動車メーカーの認証不正が再び発覚し、生産調整が避けられず、今後の受注に影響が出る見通しとの声が聞かれた。
- 地場産業は、4月の鉱工業生産指数は、食料品、家具、パルプ・紙で上昇した。ヒアリングでは、量販店から受注に対応すべく設備を増設しているメーカーや、インバウンドの影響で受注が増加しているメーカーもあるとの声が聞かれた一方で、繊維業界は右肩下がりの縮小傾向が続いている点を懸念しているとの声や、廃業する会社が増えてきており、業界全体としての規模が小さくなったり、業界で取り扱う品数が減っていく懸念があるとの声が聞かれた。

【設備投資】

- 設備投資は、5月の全国の金属工作機械受注額は、前年同月比4.2%上昇となった。ヒアリングでは、少子高齢化を見据え、自動化・省力化を前提とした生産設備の更新を実施しており、今後は、業務効率改善、グローバル対応、業務の情報武装化を目的にIT投資も複数年度に渡り継続投資を行う予定との声が聞かれた一方で、設備が老朽化しているものの、更新できずに修理でしのいでいる業者も多いとの声が聞かれた。

【個人消費】

- 個人消費は、5月の販売額は、ドラッグストア、コンビニで前年同月比で上昇し、全体で同1.1%上昇となった。ヒアリングでは、生鮮食品スーパーの売上が好調との声が聞かれた一方で、居酒屋店舗でディナータイムの客数がコロナ禍前と比較して戻っていないとの声や、メーカー希望により、各商品を毎月値上げしているの声が聞かれた。

【観光】

- インバウンド客の増加等により、宿泊者数は前年同月と比較しプラスとなるなど、回復傾向にあり、コロナ前の約9割まで戻ってきている。なお、主要宿泊施設のインバウンドはコロナ前よりも2割増と大幅に増えている。宿泊施設からのヒアリングでは、人手不足に苦慮しているとの声が多くあり、外国人人材を活用する施設もあった。

【資金繰り】

- 企業の資金繰りは、5月の制度融資実績は、金額で16ヶ月連続増加となった。機械の老朽に伴う更新や、生産増強等の用途による設備資金の利用が見られたとの声や、伴走支援型特別保証制度について、終了後どうなるかは若干不安視しているが、4～6月も駆け込みといわれるほどの需要はなかったとの声が聞かれた。

【雇用】

- 雇用面は、5月の有効求人倍率は1.57倍と32ヶ月連続で1.50倍を超えた。ヒアリングでは、最低限の人材確保はできているが人手不足の解消には至っていない。時間外労働制限規制が適用され人材確保は大きな課題であり、通年での人材募集を実施しているとの声や将来の自動化、省人化に向け、システムを構築できる人材が欲しいとの声が聞かれた。

【景気動向】

- 4月の景気動向指数（一致指数）は前月比▲3.1ポイント、5月の中小企業の景況感は同▲1.0ポイントとなった。